

## 穂冷蔵技術によるスプレーギクの安定生産

冬季においても生育が促進され、開花の遅れを抑制

### 研究開発の背景

- ◇冬季におけるスプレーギク生産では、15℃～18℃に加熱しながら栽培が行われるが、重油価格の高騰により、生産量の減少が続いていた。
- ◇加熱が不十分な場合には、低温による生育不良や開花の遅れが発生し、安定生産の妨げとなっていた。
- ◇このため、冬季においても安定的な生育・開花を可能とする生産技術の開発が求められていた。

### 研究成果の内容

#### 5℃30日間の冷蔵処理により、初期生育の促進と開花の安定化を実現

##### ○低温処理の効果

冷蔵処理を行うと、初期生育が促進される。  
また、最大5日間の開花促進効果が認められる（品種間差あり）。

##### ○切り花品質の向上

冷蔵処理を行うと、切り花長が長くなり、秀品率が15%アップする。

##### ○低温栽培の可能性

冷蔵処理を行うと、慣行栽培の夜温より2℃低く管理しても、慣行栽培で冷蔵処理を行わなかったものと同等に開花する。



穂冷蔵による開花促進（品種：エリートピンク）

### 産地の状況

##### ○冷蔵処理技術は導入が容易

貯蔵を兼ねた穂冷蔵技術は広く普及済み。

##### ○冬季の生産量減少に歯止め

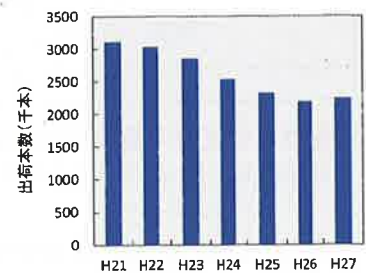
1～4月の出荷量 220万本（1.1億円）。

##### ○周年生産体系を維持

周年安定生産により市場の信頼を獲得。



現場での冷蔵処理の様子



冬季における出荷量の推移

### 期待される効果

- ☆冬季における安定生産と省エネ栽培の実現による農家所得の向上。
- ☆生産量の維持と品質の向上による市場評価の獲得。